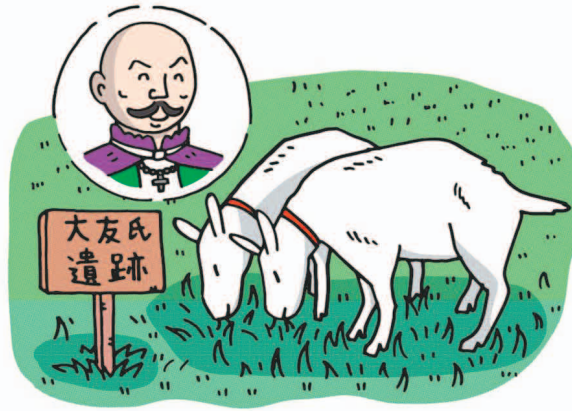


年	組	名前
---	---	----

## 大分市が大友氏遺跡で実証実験

大分市は、大友氏遺跡の発掘現場にヤギを放牧し、雑草を食べさせる実証実験を始めます。



「メ〜惑々な雑草」  
ヤギにお任せ

「メ〜惑々」な雑草の処理はヤギにお任せ！。大分市は15日から、国指定史跡の大友氏遺跡（市内顕徳町）の発掘現場にヤギを放牧し、生い茂る雑草を食べさせる実証実験を始める。県内の自治体では初めて。11月15日まで状況を調査。効果が確認できれば、人の手で処理しにくい傾斜地などへの放牧を検討する。

市によると、ヤギは多種類の雑草を食べ、傾斜地に登ることができるため雑草処理に適している。除草剤による環境汚染もない。先進地の岐阜県美濃加茂市では2012年から都市公園で放牧を始めた。芝刈り機

## 環境に優しく費用も削減

①人の手で処理しないで、ヤギでするのはどうしてでしょう。

で処理した場合と比べて人件費が削減され、費用が約3分の2になったという。全国的にヤギで雑草処理している自治体は増えてきており、大分市も実証実験に乗り出すことにした。成果が上がれば、公園や市営住宅敷地内の傾斜地への放牧を検討する。

実験は大友氏遺跡の館跡で実施。本年度は隣接する庭園跡の発掘を進めているため、館跡は雑草が生い茂っている。遺跡を管理する

市教委文化財課は「冬場以外には月に1回、職員で草刈りをしていく。ヤギが処理してくれば、負担がかなり減る」と期待する。

市内の牧場に雑草処理を業務委託。3頭のヤギを柵で囲った約千平方メートルの雑草地に放牧する。市管財課は「ヤギはかわいらしく、市民の注目を集めるかもしれない。ただ、雑草処理の実験なので餌をやるのはやめてほしい」としている。



ヤギを放牧するために柵を設置した大友氏館跡＝9日、大分市顕徳町

(2015年6月9日夕刊11面)

②雑草処理にヤギが適しているのは、何と何のためでしょう。

③ほかに、ヤギを活用できる場所を考えてみよう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....